
◆ 目次 ◆

- 1 齊藤純在モンリオール日本国総領事挨拶
- 2 2022 年の休館日
- 3 領事窓口時間等の変更について
- 4 領事だより
 - (1) 日本へ入国・帰国される方々へ
 - (2) 領事出張サービス実施予定のお知らせ（PEI 州）
 - (3) 在留届の届出内容に変更はありますか？
 - (4) 法テラスによる「靈感商法等対応ダイヤル」の設置等
 - (5) 日本発カナダ宛て国際郵便物（EMS・船便小包）の引き受け再開
 - (6) モンリオール日本語センターからのお知らせ
- 5 広報・文化だより
- 6 当館管轄 5 州の政治
- 7 当館管轄 5 州の経済

* * * * *

1 齊藤純在モンリオール日本国総領事挨拶

皆さまこんにちは。

ついに来ましたね、冬が！

昨年、雪が降ったのでケベコワに「冬だね～」と言ったら、冬は 12/21（冬至のことです）からだと言われ、以来ケベコワと季節の話をする際は慎重にしていますが、（東京出身の）日本人の感覚としては、雪が降ったら当然冬、というか、雪が降る前でもある程度寒くなったらもう冬なので、私の中では先日の初雪の日をもって冬ということにしています。

予報どおり夜半に降り始め、朝起きたらそこそこ積もっていて、日中もやまなかったもので少々ハラハラしました。というのもその日の夕方に、私が着任して以来初めての政務レベル（要するに政治家です）の来訪者が日本から到着することになっており、空港はともかく道路状況が心配だったのですが、午後に入って止み、空港への往復も普段どおりにクルマが流れていたことで事なきを得ました。来月には生物多様性条約の締約国会合（COP15）が当地で予定されており、その際も政務を含む大勢の来訪者が見えになるようですので、万事遺漏なきよう準備を進めているところです。

先日米国のプリンケン国務長官が当地を来訪され、地元テレビ局の番組に出演して極めて流暢なフランス語でインタビューに応じておられました。最後にキャスターか

ら、「フランス語がとてもお上手ですね」と声をかけられ、笑顔で「いえいえ」といった感じで返していました。私はあそこまでフランス語が上手な米国人（もちろん外交官を含めて）を見たのは初めてですが、その国務長官をもってしても「お上手ですね」と言われてしまうのを見て、以前ここに書いたような、お上手ですねと言われないうになりたいなどという浅はかな夢(?)は捨て、フランス語を褒められたら素直に「ありがとう!」と言おうと心を入れ替えました。その後も、この総領事は excellent なフランス語を話す、だとか、きれいなフランス語を話す（お世辞にもきれいとは言えないのですが、恐らくケベコワなまりが入っていないという意味で言っているのだと思います）などとおだてられることがあるのですが、「いえいえ〜」と笑顔で外交的に応じています。それにしてもフランス語は奥が深くて毎日が勉強です。調子に乗って韓国映画をフランス語字幕で観るといふ暴挙に出たのですが、さすがに疲れました。私は朝鮮語は全くといっていいほどわからない上に、字幕が消えてしまうスピードが想像以上に速くてアップアップでした。大昔、まだフランスで研修中に Dances with Wolves というケビン・コスナー主演のアメリカ映画をフランス語吹き替えで観たことがあるのですが、4時間近くと長かったこともあり、疲労困憊して映画館から出てきたことを今でも鮮明に覚えています。フランス語の映画やフランス語吹き替えはともかく、字幕を追うのはまだ早い…と感じざるを得ませんでした。

先日当地の日本語センターの卒業式・修了式に出席しました。9年間の補習校よりさらに長い14年間をセンターで過ごした子ども達が巣立っていく日でしたが、当地の学習環境で14年間日本語を学び続けるのは並大抵なことではないと思います。はなむけの言葉では、せつかくここまで日本語を勉強してきたのだから、なんとしても今後も日本語に接して行ってほしい、と心から話しかけました。その機会にセンターの視察もさせてもらったのですが、成人クラスでは皆さん一生懸命学んでおられ、ちょうどハロウィンということで小さなスパイダーマンやプリンセスがそこそこを走り回っていて、楽しいひとときでした。

今年のハロウィンは平日だったこと、去年は当地にいた長女が就職のため日本に帰国したことから、公邸にはハロウィン飾りはしませんでした。周囲の家々の飾り付けは心なしか昨年よりおどろおどろしくなっていて、毎晩クルマで通りかかると、ひとりで歩いたらちょっと怖いだろうなあ…とっていました。

風物詩と言え、11月の第三木曜日は言わずと知れた Beaujolais nouveau 解禁の日ですが、昨年解禁翌日に SAQ に行ったら売り切れと言われて軽いショックを受けたので、今年は当日の昼休みに出向きました。解禁当日なのでお店に入ってすぐのところにも陳列されていそうなものですが、一向に見当たりません。さすがにまだ売り切れではないだろうと思って店員に聞くと、今年 SAQ ではそもそも仕入れていないと…。ということはアルコール飲料が SAQ 専売であるケベック州では飲む手立てがないということになり、特段あのワインのファンではないものの、やはり話のタネにも

当日飲まないと、と昔から考えている私としては残念な気分になりました。

幸いなことにしばらくこの話を書かないで済んでいたのですが、また COVID19 が勢いを取り戻しているようです。この冬はインフルエンザとのダブル流行なども取り沙汰されており憂鬱です。昨年の大晦日に翌日からの事実上のロックダウンが宣言された「悪夢」を念頭に、秋の早い段階からとにかく年内にできるだけ多くの方々にお会いしてお話を伺い、物事を転がすべく大車輪で活動してきましたのですが、年が明けたら一体どんな世界が待ち受けているのかと思うと、期待より不安の方が正直大きいです。それでも、外交官たるもの、常に希望を持って前向きに取り組んでいこうと思えます。季節の変わり目でもあり、皆さま一層ご自愛ください。

齊藤 純

2 2022 年の休館日

- 12月26日（月） Boxing Day
- 12月29日（木） 日本の行政機関の休日
- 12月30日（金） 日本の行政機関の休日
- 毎週土日

3 領事窓口時間等の変更について

2020年4月以来、新型コロナウイルス感染症の感染拡大とケベック州の各種規制を受け、領事窓口受付時間を短縮してきましたが、2022年3月28日から、通常化しています。

詳しくは以下をご覧ください。

(1) 受付時間

【査証を除く、申請の受付】

9時～12時、13時30分～16時30分

【査証を除く、交付・受領】

9時～12時30分、13時30分～17時

【査証の申請受付と交付・受領】

9時～11時30分、13時30分～16時

(2) 標準処理日数

●旅券

申請日の翌開館日を1日目として、5開館日目に交付します。

(例：月曜日申請→翌週月曜日交付)

●証明

申請日の翌開館日を1日目として、3開館日目に交付します。

(例：月曜日申請→木曜日交付)

●査証

申請日の翌開館日を1日目として、原則として、5開館日目に交付します。

(例：月曜日申請→翌週月曜日交付)

(3) 予約制の一部導入

当地の規制緩和及び日本における水際措置緩和に伴い、来館者が増加しております。来館者及び当館館員の感染リスクが高まることを可能な限り防ぐため、領事待合室に来館者が長時間滞在されることのないようにいたします。

このため、2022年3月15日から、当面の間、一部の取り扱いについて予約制を導入しています。あらかじめ当館領事班にご連絡いただき、ご予約ください。

(i) 対象となる取り扱い

- ・在留証明の申請
- ・署名証明の申請
- ・警察証明の申請
- ・戸籍国籍関係の届出

(ii) 予約方法

当館領事班に、Eメールまたは電話でご連絡をお願いします。

【Eメールアドレス】 consul@mt.mofa.go.jp

【電話番号】 514-866-3429

4 領事だより

(1) 日本へ入国・帰国される方々へ

新型コロナウイルス感染症の水際対策により、日本への入国・帰国前から事前の準備が必要です。当館ホームページを随時更新してご案内しています。

【当館ホームページ】

https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html

https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/jp/consular/coronavirus_jp.html

(2) 領事出張サービス実施予定のお知らせ (PEI 州)

当館は、2022 年 12 月に PEI 州シャーロットタウンで領事出張サービスを開催する予定です。

詳しい情報は以下の URL をクリックしてご覧ください。

<https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/jp/consular/oneday.html>

なお、2023 年 3 月に NS 州ハリファックスでも領事出張サービスを行う計画ですが、詳細は未定です。

(3) 在留届の届出内容に変更はありますか？

【2023 年 4 月 1 日をもって、ファックスによる提出方法は廃止となります】

外国に 3 か月以上滞在する日本人は、お住まいの地域を管轄する在外公館に在留届を提出することが義務づけられています。在外公館は、在留届をもとに、日本人の皆様が不慮の事故や事件、災害に遭遇した際の安否確認、日本国内連絡先への緊急連絡等を行っています。そのためには、在留届の記載内容が常に最新の状態であることが重要です。

●在留届を紙媒体で当館に提出された方：

届出内容に変更が生じた場合は、速やかに当館にご連絡くださるようお願いいたします。

●インターネット上で提出された方：

ご自身でインターネットにて手続きをお願いいたします。

災害や騒乱等が発生した際、ご家族、ご友人、同僚を守るため、一人でも多くの方に安全対策に関する情報が届くよう、在留届（3 か月以上の滞在）の届出、またはたびレジ（3 か月未満の滞在）の登録を、お知り合いの方や出張者・旅行者にご案内いただけますようお願いいたします。

※なお、2023 年 4 月 1 日をもって、ファックスによる提出方法は廃止となります。原則として、インターネット上での提出をお願いいたします。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/>

(4) 法テラスにおける「靈感商法等対応ダイヤル」の設置等

2022 年 11 月 14 日、法テラスに、「合同電話相談窓口」の機能等を継承した対応窓口として、「靈感商法等対応ダイヤル」が設置されました。このダイヤルでは、「旧統一教

会」問題に限らず、これと同種の問題について幅広く相談を受け付けています。

<https://www.anzen.mofa.go.jp/others/legal-terrace-consultationdial.html>

(5) 日本発カナダ宛て国際郵便物（EMS・船便小包）の引き受け再開

11月1日、日本郵便は、日本発カナダ宛ての国際郵便物について、11月2日から下記のサービス引き受けを再開する旨発表しました。

- ・ EMS（国際スピード郵便）
- ・ 船便扱いの小包郵便物

詳細は日本郵便のウェブサイトをご覧ください。

https://www.post.japanpost.jp/int/information/2022/1101_01.html

(6) モントリオール日本語センターからのお知らせ

【モントリオール日本語センター 2023年4月開講 3歳児クラス募集について】

当校では2023年4月開講、新幼児1クラス（3歳児クラス）の募集を11月21日より開始いたします。

以下のGoogle Formに必要事項をご記入の上、お申し込みください。

応募者多数の場合には抽選になる場合もございますのでご了承ください。

また、新幼児1に限らず他学年の募集も同時に行っておりますので、以下のGoogle Formよりお申し込みください。

*日本語センターは2023年1月より、College Jean-de-Brebeuf(Cote-des-Neiges)に移転します。

【対象年齢】 2019年4月2日～2020年4月1日生まれのお子様

【Google Form】こちらからお進みください。

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSc7mLhDQVHzJgbrLUInQcqBf4mTxah6ruG-nW2gDotNWKbGig/viewform>

【募集期間】 11月21日（月）～12月5日（月）

【問い合わせ】 info@japanesecenter.com

皆様のご応募を心よりお待ちしております。

5 広報・文化だより

当館では、日本関連行事に関する情報を随時募集しております。皆様ご自身が実施される日本関連行事のほか、知り合いの方についての情報を（culture@mt.mofa.go.jp）までお知らせください。毎月末までに原稿をいただければ翌月のメールマガジンに掲載することができます。ホームページへの掲載は随時行います。

(1) 当館は、以下の SNS 公式アカウントを開設しています。日本や当館の活動に関する情報を随時発信しています。

●フェイスブック

<https://www.facebook.com/JapanConsMontreal>

●ツイッター

<https://twitter.com/JaponMontreal>

●YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UC5Fc52skP5w8otfowcN30ag>

(2) Salon du livre de Montreal

期間：11月23日（水）～27日（日）

場所：Palais des congrès de Montreal

1001 Jean Paul Riopelle, Montreal

<https://www.salondulivredemontreal.com/>

当館は「マンガ・ゾーン」にて、以下の講演（仏語）を行います。

<https://www.salondulivredemontreal.com/programmation?scene=Zone+Manga>

●A la decouverte du Japon et la culture manga a travers les yeux de 2 anciennes du Programme JET

日時：11月24日（木）16時～16時50分

<https://www.salondulivredemontreal.com/evenements/a-la-decouverte-du-japon-et-la-culture-manga-a-travers-les-yeux-de-2-anciennes-du-programme-jet-avec-le-consulat-du-japon>

●Envolez-vous vers le Japon - Bourses MEXT et Programme JET

日時：11月26日（土）16時～16時50分

<https://www.salondulivredemontreal.com/evenements/envolez-vous-vers-le-japon--bourses-mext-et-programme-jet-avec-le-consulat-du-japon>

(3) 日本関連行事等のお知らせ

*以下の日本関連行事は、必ずしも当館が共催、後援、保証している行事ではありません。また、同行事にて表明される意見等は日本国政府の公式見解とは異なる内容を含み得ます。行事詳細については、各主催団体へ直接お問い合わせください。

*外部のサイトへのリンクは、あくまでも皆様へのご参考情報です。外部のサイトに掲載されている内容や信頼性に関しましては、当館は一切責任を負いませんのでご了承ください。

●Chant d'une clematite / Song of Clematis de Masako Miyazaki

宮崎雅子氏による写真展が開催中です。（無料）

期間：2023年5月7日（日）まで

場所：Parc Saint-Joseph

9909, 68e Avenue, Montreal

<https://montreal.ca/evenements/chant-dune-clematite-song-clematis-de-masako-miyazaki-28675>

●いけばなインターナショナル 11 月例会

Leslie Dolin 氏による草月流デモンストレーションが行われます。

日時：11 月 25 日（金）13 時

場所：Centre Communautaire Monkland

4410 ave. West Hill, Montreal

電話：514-872-8588

参加費：20 ドル

連絡先：田中和子氏（kazuko.dorangeville@gmail.com）

●日本クリスマス・マーケット（Japanese Market in Montreal）

日時：12 月 2 日（金）17 時～20 時及び 3 日（土）11 時～19 時

場所：Centre Communautaire de Loisirs Sainte-Catherine d' Alexandrie

1700 rue Atateken, Montreal

<https://www.facebook.com/marchejaponaismtl>

●モントリオール日系文化会館ホリデイ・バザー

日時：12 月 4 日（日）12 時～17 時

場所：モントリオール日系文化会館

8155 Rue Rousselot, Montreal

<https://www.jcccm-cccjm.ca/?language=en>

●ランゲージ・エクスチェンジ（仏語－日本語）

ラヴァル大学院生が主催するオンライン・ランゲージ・エクスチェンジが、毎週土曜日朝 8 時（カナダ東部時間）から開催されています。

<https://www.meetup.com/en-AU/canasian-station/>

問い合わせ先：Pascal Paradis 氏（pascal.paradis.2@ulaval.ca）

●国際交流基金トロント日本文化センター

日本語教師向けにワークショップや情報交換会（オンライン）が随時開催されています。

<https://jftor.org/language/teachers/>

E-library で日本の本、マンガや雑誌などを読むことができます。

<https://jf.overdrive.com/>

その他、様々なオンライン・イベントが随時開催されています。詳細はこちらからご確認ください。

<https://jftor.org/>

6 当館管轄 5 州の政治

(1) ケベック (QC) 州

・10月3日、州総選挙が実施され、ルゴー党首率いるケベック未来連合 (CAQ) が圧勝し再び政権を獲得。各党議席獲得数は以下の通り (カッコ内は改選前比) : CAQ 90 (+14), 自由党 PLQ 21 (-6), ケベック連帯 QS 11 (+1), ケベック党 PQ 3 (-4), 保守党 PCQ 0 (-1)。

・10月4日、ルゴー州首相は、得票率が議席に結びつかなかった選挙結果を受け要望の聲が上がっている、選挙制度改革の可能性をきっぱり否定。QC 州では単純小選挙区制を採用している。今回総選挙の得票率はそれぞれ CAQ41%, PLQ14%, QS 15%, PQ15%, PCQ13%。

・10月6日、州内でがん手術を待つ人が2021年2月の3152人から41%急増し4444人に。5人に1人以上の患者の待機日数が医学的に許容される57日を超える。

・10月6日、ルゴー州首相は、州における仏語の地位を守るため、移民の年間受け入れ数上限を5万人に維持しつつ、移民に関する権限の完全移譲を連邦政府に求めているのに対し、トルドー連邦首相は、受け入れ数をさらに増やし、州が既に持っている権限をフルに行行使することで仏語の地位は守られるとの立場。

・10月11日、サン=ピエール・プラモンドン PQ 党首は、議員就任式での宣誓の際、同党メンバーが国王チャールズ 3 世に忠誠を誓わずに議員として認めてもらえるよう州議会に要請。13日、QS 党も可能であれば国王に忠誠を誓わないと発表。17日、州議会事務局長は、法律が変わらない限り、英国王室に忠誠を誓うことが議員の座に就く条件である旨回答。

・10月19日、QC 州出身の俳優、脚本家、舞台・映画監督のロベール・ルパージュ氏は、カナダ人として初の国際交流基金賞を受賞、東京で開催された表彰式に出席。

・10月20日、ルゴー新内閣が発足。26人から30人に増えた閣僚のうち20人が留任、うち13人が引き続き以前と同じ分野を担当する。国際関係・フランコフォニー大臣には、元ラジオカナダのジャーナリスト、ビロン (Martine Biron) 氏が就任 (女性の地位担当大臣を兼任)。

・10月27日、ニコルズ PLQ 議員は、アングラード党首が任せようとした担当を拒否したため除名処分を受け、無所属議員となった。ニコルズ氏は第3副議長の座を狙っていたが、アングラード氏はそのポストにはバンジャマン氏を推していたとのこと。同党の議席数はこれで20となった。

・10月27日、ヨーロッパで BA. 4, BA. 5 に代わり主流になりつつあるコロナ・オミクロン株の新たな派生株 BQ1.1 系統が、州内で急拡大している。専門家や医師は、これら派生株感染者の5人に1人には従来の治療が効かなくなる可能性を懸念。

・10月28日、カナダ公式訪問中のプリンケン米務長官がモントリオールを訪問。リチウムのリサイクル企業 Lithion 視察等を実施。

(2) 大西洋諸州

・10月26日、カナダ統計局は、2021年国勢調査の移民に関するデータを発表 : 移民が

占める人口割合は、大西洋州全体で過去 15 年で 3 倍となった（2006 年に 1.2%だったが 2021 年に 3.5%に）。過去 5 年では、移民は都市部に集中し、NB 州モンクトンでは、移民の 48%が 2016～2021 年の間に流入。

(3) ニューファンドランド・ラブラドール (NL) 州

・10 月 11 日、ウクライナ難民 177 人を乗せた 3 機目の州政府チャーター機が、ワルシャワからセント・ジョンズに到着。

・10 月 24 日、コロナ感染時の 7 日間の隔離が不要となる。

(4) プリンセドワードアイランド (PEI) 州

・10 月 13 日、野党緑の党は、州政府と電力会社のハリケーン「フィオナ」への対応ぶりを検証する公開調査を要求。911 が数日間使用できなかったこと、インターネットや電話の復旧に最長で 3 週間かかったこと、及び 250 ドルの緊急一時金申請のために長い行列ができたこと等、州民から不満の声が上がっている。（*11 月 9 日、緑の党が州議会に提出した動議は、反対多数で否決された。）

(5) ノバスコシア (NS) 州

・10 月 5 日、進歩保守党内でベイン州議会議長解任の動きが見られる。ベテラン議員のベイン氏は、2021 年に同党が総選挙で勝利後、ヒューストン党首から指名を受けて議長に就任したが、その後 2 人の間で意見の相違が度々あったといわれている。一方ベイン氏は辞任の意思はないと表明。なお 1875 年以來、同州議会で議長が任期満了前に解任された例はない。13 日、州議会が開会し、同党は、ベイン氏が 2023 年 4 月までに議長職を辞任することをヒューストン党首に約束する手紙に署名したと発表。

・10 月 11～14 日、齊藤総領事の NS 州公式訪問。ルブラン副総督、ヒューストン首相、サヴェージ・ハリファックス市長、州閣僚、大学・文化・ビジネス関係者他との面会・意見交換等を実施。

・10 月 26 日、州控訴裁判所は、コロナ規制反対野外集会を阻止するため、州政府（当時）が 2021 年 5 月に州上級裁判所に申請し承認された、全ての抗議集会を禁じる差し止め命令（*解除済み）は行き過ぎであったとの判断を下す。同命令がカナダ権利自由憲章の侵害にあたるとして、市民団体「Canadian Civil Liberties Association」が抗告していた。

(6) ニューブランズウィック (NB) 州

・10 月 13 日、州自由党暫定党首も務めたベテランのムランソン議員は、21 日に政界を引退する旨発表。同氏以外に最近、自由党議員 2 人が辞職を表明済み。

・10 月 13 日、カーディ州教育大臣が辞任。カーディ氏は、公表したヒッグス州首相あての辞表で、第二言語としての仏語教育改革をめぐるヒッグス氏のマイクロマネジメントぶりを激しく非難し、州教育省が 2024 年 9 月開始に向けて準備してきたフレンチイ

マージョンプログラムに代わる新たなプログラム導入を、ヒッグス氏が無理やり1年前倒ししようとしていることに強い懸念を表明。

・10月13日、内閣改造実施。カーディ氏は閣僚落ち。教育大臣にはホーガン前公安大臣が就任、公安大臣には、今年PC党に合流したオースティン・前ピープルズ・アライアンス党首が就任。また、州のバイリンガル政策や仏語保護に否定的な姿勢をとってきたオースティン氏の閣僚入りを仏語系団体は非難。

・10月14日、カーディ氏がPC党から追放され無所属に。

・10月14日、州政府は、米ルイジアナ州と、文化・芸術遺産についての関係強化・促進を目指す覚書を締結。覚書の締結は、ルイジアナ州副知事が2019年のアカディア人世界会議でNB州を訪れたのがきっかけとのこと。

・10月24日、州政府は、看護師不足対策として、州内大学で4年間の課程を修了する代わりに、32ヶ月間の短期集中プログラムを100人の学生に提供する協定を米メイン州ビール大学と締結。ビール大学で看護学士号を取得するには通常79000加ドルかかる学費は42000加ドルとなり、さらに6000加ドルの助成金が学生に支給されるが、卒業後少なくとも1年間はNB州で正看護師として働くことが条件。

7 当館管轄5州の経済

(1) QC州

・10月6日、モンリオールの9月の住宅販売数は2537件で、前年同月比30%減、9月単月としては2013年以降最少となった。

・10月12日、ケベック貯蓄投資公庫(CDPQ)は、シンガポールの再生可能エネルギー大手ヴィーナ・エナジー(Vena Energy)と、福島県の太陽光発電プロジェクト(35MW、7000世帯に電力を供給)向けに9000万ドル相当の債権に関する契約を締結。CDPQによる日本の再生可能エネルギープロジェクトへの出資はこれが初。

・10月12日、ハイドロケベック(HQ)は、ニューイングランド地域の水力発電所を20億米ドルで買収。HQによる買収では史上最高額。13ある発電所はバーモント、ニューハンプシャー、マサチューセッツ各州を横断する2つの川に位置し、総設備容量は589MW。

・10月12日、リオ・ティントと連邦政府は、Sorel-Tracyの同社工場近代化のため、今後8年間で最大7.37億加ドルを支出すると発表。現在同工場では鉄鋼、スカンジウム、二酸化チタンを生産し、年間排出量は100万トン以上だが、原料炭の代わりにバイオ炭と水素ガスを使う「ブルー・スメルティング」という試験中の技術で排出量70%削減、また北米初のチタン生産拠点となることを目指す。

・10月14日、2021年に電気自動車向けリチウムイオン電池工場建設を発表したBritishvolt、StromVolt両社のプロジェクトが頓挫。前者は財務状況悪化、後者は技術ノウハウを提供してもらはずだった台湾デルタ電子とのパートナーシップ解消のため。

・10月18日、豚肉加工大手オリメル(Olymel)は、州内177人の管理職ポストを削減(うち120ポストはもともと空席)。コロナや労働力不足、サプライチェーンの変化、インフレ、世界経済状況の先行き不安が理由。

・10月20日、ヌーヴォー・モンド・グラフィット(Nouveau Monde Graphite, NMG)は、

三井物産、Pallinhurst、ケベック投資公社(IQ)から総額 5000 万米ドルを調達。資金は Saint-Michel-des-Saints (ラノディエール地域) 黒鉛(グラファイト) 鉱山とベカール工場建設に使用される予定。また NMG は、パナソニックエナジーと、黒鉛の長期供給契約に関する覚書を締結。

・10月20日、Saint-Jean-sur-Richelieu のユニフォーム製造企業 Logistik Unicorp は、カナダ軍向け装備を製造する 37 億加ドル、20 年間の契約を獲得。

・10月21日、CDPQ Infra は、都市高速交通網 (REM) サウスショア (Rive-Sud) 路線開通を 2023 年春に再延期。レールや電気系統は建設完了、全 6 駅は 98%完成しているが、車両が 106 台中 54 台しか納入されていないとのこと。

・10月24日、レクリエーション・ビークル製造の BRP は、ロシアがウクライナを攻撃するので使用したイラン製ドローン Mohajer-6 に、BRP のオーストリア子会社 Rotax 製エンジンが使われていた疑いで調査を開始。

・10月26日、エアカナダは、オプションとしていたエアバス A220-300 型 15 機を正式発注。ミラベル工場で作られる同型機はこれで 60 機に。

・10月27日、ケベック市の「フェアモント・ル・シャトー・フロントナック」ホテルが、ワールドラグジュアリーアワードの「ホテル・オブ・ザ・イヤー2022」を受賞。

(2) 大西洋諸州

・10月4日、連邦政府は、ハリケーン「フィオナ」で被災した人を対象とした、3 億加ドルの基金を設立すると発表。資金は、カナダ大西洋経済開発庁 (ACOA) が他の連邦省庁と協力し管理する。連邦政府はまた、災害時に州が負担する費用の 90%をカバーする災害時資金援助制度 (DFAA) を通じて、州への資金援助も行う。

・10月19日、カナダの保険業界団体 Insurance Bureau of Canada によると、「フィオナ」は大西洋地域で 6.6 億加ドルの保険損害をもたらし、異常気象によるものとしては過去最高額となると推定。州別では NS 州と PEI 州で損害額が多く、それぞれ 3.8 億加ドルと 2.2 億加ドル。被災地の多くは保険が適用されない洪水氾濫リスクの高い地域にあるため、復旧費用の圧倒的大部分は政府負担となるとみられる。

(3) NL 州

・10月5日、州政府は、高騰する生活費対策として、2021 年の年収が 10 万加ドル未満の全ての成人に対して、緊急一時金一律 500 加ドルを支給すると発表。年収 10 万~12.5 万加ドルの人には、年収額に応じて 250~500 加ドルを支給する。

・10月25日、州政府は、現在住宅補助等のサービスを受ける 16~21 歳の州民約 300 人を対象に、新たなベーシックインカムプログラムを立ち上げる。2023 年 1 月より、毎月 600 加ドル以上の追加的経済支援とともに、財政・雇用カウンセリング、メンタルヘルス・依存症対策支援、教育支援等、既存の包括的支援が強化される。ベーシックインカムの導入は、医療制度改革を目指し州政府が設立したタスクフォース「Health Accord NL」が今年発表した提言の一つ。

(4) PEI 州

・10月31日、州政府は、高騰する生活費対策として、5800 万加ドルを追加支出し緊急一時金を支給すると発表。2021 年の年収に応じ、単身世帯には最高 500 加ドル、カップルやひとり親世帯には最高 1000 加ドルを支給する。

(5) NS 州

・10月13日、州政府は、電気通信会社に対し、自然災害への備え強化を義務付ける法案を州議会に提出。当法案は「フィオナ」上陸後、通信各社が州の非常災害対策本部に物理的に参加せず対応が遅れた、911等が不通なのに利用者に課金を続けた、といった問題を受けて作られたもの。

・10月27日、州史上最大のインフラプロジェクト「QEII（P3による地域医療センター再開発プロジェクト）」で最も重要な要素となる、ハリファックス病院再開発が中断。唯一の入札者 Plenary PCL が期日内に必要書類を提出せず。同病院プロジェクトをめぐっては、別の入札者 EllisDon が、コスト、サプライチェーン、労働力不足の問題を理由に、今年6月に入札プロセスから離脱している。2018年に20億加ドルと見積もられたコストは現在30億加ドル以上になった。

(6) NB 州

・10月1日、最低賃金が時給13.75加ドルに引き上げられ、大西洋州で最高額となる。

・10月31日、州政府は、11月1日より学生ローンの利息を撤廃する旨発表。65000人の現在の貸貸者と、将来の学生が恩恵を受けると説明。

[在モントリオール総領事館メールマガジン]

○このメールマガジンは送信専用アドレスから、当館に在留届を提出されている方と、当館メールマガジン読者登録をされている方に向けて送信されています。本メールあてに直接返信なさらないようお願いいたします。本メールマガジンに関するご意見・ご要望は以下のメールアドレスあてに送信してください。

emagazine@mt.mofa.go.jp

○メールマガジン読者登録をされている方で、配信中止・配信先変更を希望される方は、「配信中止（又は登録解除）」、「配信先変更」を希望する旨明記の上、emagazine@mt.mofa.go.jp までご連絡ください。登録完了後に確認のメールが届きます。

ただし、在モントリオール総領事館ホームページ内の読者登録ページから登録を行った方は、同ページ内の、「利用者情報の変更／削除」から同様の手続きが行えますので、そちらをご利用ください。

○メールマガジンのバックナンバーは、以下のURLをクリックすると閲覧いただけます。
https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itpr_ja/mailmag.html

○参考ホームページ

首相官邸ホームページ（www.kantei.go.jp）

外務省ホームページ（www.mofa.go.jp/mofaj/）

在カナダ日本国大使館ホームページ（www.ca.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html）

当館ホームページ(https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html)

当館 Facebook (www.facebook.com/JapanConsMontreal)

当館 Twitter : @JaponMontreal <https://twitter.com/JaponMontreal>

○発行：在モントリオール日本国総領事館

Consulate General of Japan in Montreal

1 Place Ville Marie, Suite 3333, Montreal, Quebec, H3B 3N2, Canada

○本メールマガジンからの転載を希望する場合は総領事館メールマガジン担当
(emagazine@mt.mofa.go.jp) までご相談ください。

■-----■